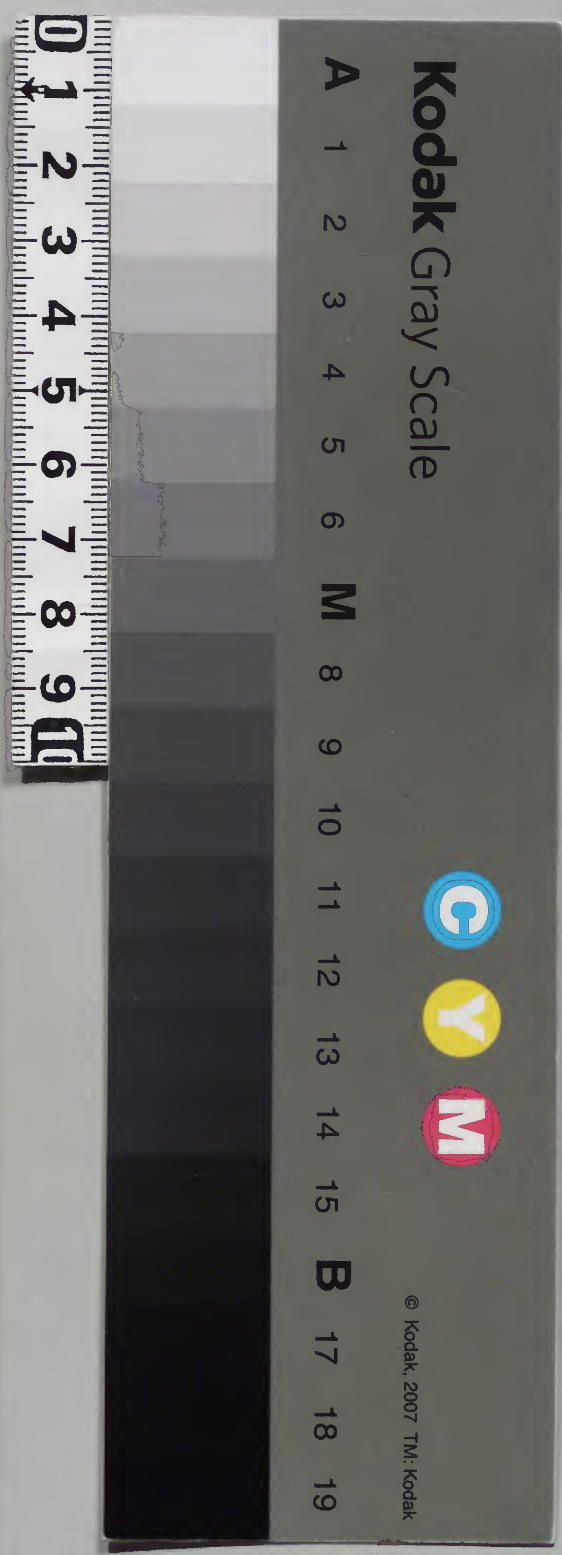


國鑑

六上

庫文閣内	
内閣文庫	
番號	和 28392
冊數	11 (8)
函號	185 1



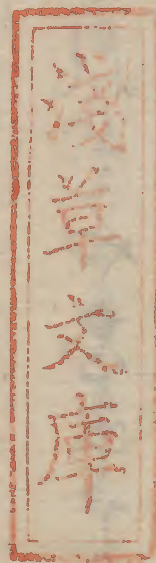


國鑑卷之六

秦

始皇帝

莊襄王此子也... 實八呂不韋... 始皇帝乃種... 國元て二十六年... 天下此主... 六國... 齊王建... 四十四年... 秦既... 韓魏趙燕楚... 乃五ヶ國と滅... 只齊... 強... 齊ハ



東海の濱... 秦... 齊王建... 韓魏趙燕楚... 乃五ヶ國と滅... 只齊... 強... 齊ハ

襲とてい來る事志となく自余乃と五ヶ國を却夕
秦とあらしひ子と齊法相とに軍とる順
かく又君と后さびさう器量さびさうの字と中國の政道と死
かゝる諸侯と信まことと失なしりし一六齊王建國
と繫て四十餘年之間敵乃よまらざるを以て事ハ
相ありきかくあ君と后今ハの時王建に臣下
此用よ立處ふよものごとく遺言たいげんを以て王建
筆とりて書とめん志あまされいさや志まてり

こく二度ふたたび口をハ開ひらけりきなむ君と后
莞わんせられ后勝こうしやうとよよとの相あひとけり秦乃間者
賤しんよあまきい王と勸すすて秦と念頃ねんこう一隣國乃
加勢とせはるもれ、秦志心乃まに五ヶ國を反
切取きりも繫今年ことし弗畏ふ入太史何來たし以もやうハ
三晋并さんよ林史の談だん堂志心秦よ付事つじと始はじひ
りの多おほしと形かたちの拓はく歩ほく人数と給たまりゆき
兒等こら此舊順こハ皆みなは子よ入いりしんん

おいくは清威光ゆしく秦とわろはる事
掌中よひんを勸めれを心閑志入
只后勝りゆ事よるは武備と少
安閑とく居多りしは秦乃大将王貴
燕と討取し事よくは齊ようつて
屋小に條淄よす入る難強んぞす
この志なく王建ハ降人とありて出きふと
共と心不れ城禁の中野宿を鉄死也

あつりけるかきまめハ回畫くは天下統一統
あゆりしハ徳之皇と意功立帝に造りしと
号と改めて皇帝と稱し命と制しひ令
詔しひ自乃るを候と稱し又疆中
以事ハ臣子とく君父の行跡と評儀
系以の外に習せられし事以來是と止く
候と始皇帝としひ跡ハ二世とせしとく
萬世よあましとく周公の定めし疆法とて

守尉監とて官人としてありける守ハ奉行
職尉ハ

軍役監ハ
日付役之又兵亂乃根を以て天下に兵器と

反集鑄つて鐘鏢鐘と鏢
基あり金人として

沛殿乃大庭に並立天下に直家傑十二萬軒と

咸陽城に遷しけり又諸侯を亡くす毎に其

固く乃殿つらにありて咸陽の北なる

坂乃とよ殿舎建おらへり捕たる義人鐘

太鼓とてその内は鐘並多祭

天下と治むるに封建郡縣とてありあり

封建とて諸侯と立て治むる事とて郡

縣とハ天下盡く天子の臣領とて固くハ

都ら官人として治むるとて封建

郡縣乃事とて是非利害歴代乃

諸儒其論もつて魏乃曹固晋の陸機
宋北胡宣ハ封建也

天下代公として諸侯と治むる固く

國と人事をわたりて民とししこれハ臣民
志亦累代乃恩義と重んずるんありハ
世に末よ成るゆ祭と志儀ハ易に離るるも
よふゆかく誠と智人の制と云つ一
郡縣乃法ハ太守刺史をんもよふ事ハ
職多しを仁賢乃人の學て民と云ふ
政の理と志を互職二年五年乃内の
あまに幾福あつて交代せられハ下此恩義

に感ずる事と云く世乃これん
其時ハ一人乃匹夫亂と起せハ天下
一崩中なるゆりゆりハ之代封建乃
代ハ皆七八百年乃長久とありら秦漢
以後郡縣乃世ハ長しと云ふハ二百年に
過らざる是別歴然此驗ありゆきと
か多事ハ理勢をよそのゆて自然と成
ゆゆめや智恵才覚とりくゆえらに

立直たてましとから紀よりとて見しる異朝いさうハ

上代封建じやうだいけんけん也なり後世郡縣こうせいぐんけん 封建ハ周乃世切けんけんハしゅうのうよせきり

今此清朝いまこのせいしやうすく皆郡縣みなぐんけんありし漢の時かんの時から封建のけんけんの本もと

朝ハ上代郡縣しやうだいぐんけん也なり後世封建也こうせいけんけんなり 王代ハ郡縣おうだいハぐんけん

漢倉殿かんそうだん六十そくじゅう海州かいしゅう乃なり巡捕使じゆんぷしりて軍功ぐんこうありしものに

莊園しやうえんといひし也なり此職このしやくといふはりし大石小石おおいししおおいしといふはりし

法乃將軍家はふのしやうぐんか也なり世よといふはりして自然じぜんといふはりし再またハ

家園けえんといふはりしもも家かといふはりし亦また今世いまよ乃なり

有根うこんといふはりし柳宗元りゆうしゆうげん蘇軾そしか等らに見せしるはりし世よ反かへ

中ちゆう旨しハあらうといふはりし一いつといふはりし思しふはりし也なり

二十七年帝にじゅうしちねんてい隴西北りゆうせいほく地ちありしといふはりし遊ゆう境けい一いつ甘かん

泉殿いづみだんといふはりし池道ちだうといふはりし下したは下池ちといふはりし也なり

二十八年帝にじゅうはちねんてい東園とうえんといふはりし遊ゆう境けい一いつ鄒嶧山しゆうがいさんありしといふはりし

泰山たいしやんといふはりし梁父山りやうふしやん也なり封禪ふうぜんといふはりし天てん賦ふ

祭まつりりて多おほ天下てんかといふはりし一いつ統とといふはりし也なり天てん行ゆつと也なり

史しりし字じ琅邪山りやうげさんといふはりし登のぼりて是こゝといふはりし也なり初戰しよせん國くに

とうなき せんらん

乃時宗母忌漢川子高あんとつよの仙人

不死乃術たふしよ通と渤海ぼくかいの中に蓬萊ほうらい方丈ほうちやう

瀛洲えいしゅう定じやうつふつ此山こゝのやまの諸しよの仙人

住すまく不死乃薬たふし何なにりりとと齊せいの威王

宣王燕せんわう北昭きたしやうままあんと是こゝと信しんくんとあつて

求もとくくああままあありりとと遠とほくくああらられれ風かぜに

ささららままくく到いたりりかかつつひひててををゆゆりりははる

此年こゝのとし始はじ皇こう琅ろう邪じゃよよ到いたりり時とき方ほう士し徐じゆ福ふくといいふふの

方士ほうしの仙術せんじゆつと
教おしるるよよののとと上かみ書かきくくてて求もとくく見みゆゆりりとと中なか

りれハハりりににままをを童どう男おとこ童どう女め数かず子こ人ひととと船ふねよ

糸いとせせとと清きよくくととききりり泗水せいすいををいいふふ川がは乃の底そこに

固かたりり九鼎くじゆああままとと潔けつ齋さいしてして禱いた求もとくく水

練れんの者もの千せん人にんとと入いりりてていいははれれととああららるる祭

又またまま江えああとと渡わたらんらんとと湘しやう山さん乃の下しためて

大風たいふうよよ遠とほくく渡わたりりししくく湘君しやうきんといいふふ神かみハ

いいははるる神かみをを定じやうめめ同どうれれハハ堯ぎやうのの女め舜しん乃の后ごうとといいふふ

いいははるる神かみをを定じやうめめ同どうれれハハ堯ぎやうのの女め舜しん乃の后ごうとといいふふ

ゆと申す始皇大も腹立とくはらひ山とす
ちりせとて湘山乃木と盡くきらせり

又異朝也及道家とて仙術を教ゆる方

あまくと長生不死乃術ありてい色て

此怪しきと行して人惑はす

生りて生家の命惜と思はす

わらひまて萬葉乃天子富四海を

きりらりて九人れ何り多記と思ふ

不との事ハ清心よもせらるるを以て

新せう共生死乃道のいはれ何あり

祿を不死とていそんよ何とて

あふ屋又は進ハ塵代乃清心是に

終い財を失い身をあらはるるを

代ほこよ是あま其惑ほめる清心は

愚れ人よはあらはるる他乃固ら

その有根を見れハヒ下ゲに急よそん

かる道に或回し後らあるるハ玉乃幸
多しハへき若佛法とハ事也我回
小波らハハ今乃世此人の彼の後よ
惑されハなりと人乃回の事とハ思
多らハハハ思よんゆらんを覚ゆる
二十九年帝東陽武よ遊覧ありした韓乃
張良といふ者先祖五代韓の相なりし韓
亡い多れ其敵討んと思ひ力者にハハハ

博浪沙中といふ處也始皇と漢樵也
うせけハ仕損して乗智の車にあたり
きれハ始皇人ハ肝とけハ十日間天下を
乃らうせられ也と見えありけき
三十二年東方碣石の海に
遊覧ハ天下ハ城郭と毀せたり又盧生として
仙人と求てせられハ録圖書といふ未来記に
秦と滅すハ胡あり也んてんてん

胡と其子胡亥^ニりるあるより好しと信じて
胡^コ虜^ロのりるとし得^レは^レは^レを^レ討^テと^モす
將軍蒙恬^{カウケン}は三十萬の兵つきて^ケ匈奴^{コウコ}と^レ伐^セ
せり

三十二年南越^{カクエン}と^レ切^テ取^リて桂林南海^{ケイリン}ありんとす
郡^{クニ}と^レ並^ビ番^{バン}と^レして五十萬人と^レして^レけり
蒙恬^{カウケン}匈奴^{コウコ}と^レ追^ヒ拂^ヒ河南^{カウナン}の地と^レ取^リて^レ臨洮^{リンテウ}
と^レ遼東^{リョウトウ}より^レする^レも^レ萬餘里^{マンジョリ}の同長城^{ドウチヤウ}

とく人^{ヒト}の^レ古^コの^レ法^{ホウ}を^レ築^キて匈奴^{コウコ}との^レ界^{カイ}と^レせ
ありし^レも^レあり

三十四年丞相李斯^{リシ}と^レ諸生^{ショセウ}も^レ遠^{トウ}き^レ古^コの^レ
事^{コト}と^レ学^{ガク}ひ^レ覺^ス、當代^{コウダイ}を^レ非^ヒぶ^レ見^ルと^レ法令^{ホウレイ}の^レ有^ル
を^レ問^ヒふ^レ面^{オモ}して^レ学^{ガク}流^{リウ}と^レ名^ナと^レ危^{カシ}て^レ是^レを^レ批判^{ヒツパン}は^レ
り^レ問^ヒふ^レの^レ事^{コト}と^レ停^{テイ}止^シせ^レられ^レし^レん^レを^レ
法^{ホウ}威^イ光^{カウ}の^レ障^{サウ}となり^レし^レん^レ其^レ時^{トキ}に^レ詩^シ經^{キヤウ}
書^{ショ}經^{キヤウ}と^レ始^{ハシ}め^レ諸^{ショ}の^レ書^{ショ}を^レ籍^{セキ}に^レ収^ウめ^レて^レ此^レを^レ聽^{テイ}ふ^レ取^ク集^{シユ}て

皆焼捨詩書乃事と物終る者死罪不
せん若と引多今成評するものハ之族を
乃子所ん諸目れ面と見ゆりあらん者ハ
同衆く之と式目と定度くそ好也下と中
きれつ花物く之とて天下れ書籍盡く焼
弃せして只醫書外遠乃書の之とせれこ
これと致

三十五年蒙詔之命して九原より雲陽まで

千八百里之間山と崩し谷と埋て直道とそ
作しせ名も又先代乃宮殿せまりして宮刑
成蒙りし者七十餘萬人とかり出して阿房宮
と造営し先前殿とそ作しせりは東西五百
歩南北五十丈上より萬人乃座と殺く尽く
下ハ五丈れ旗と立るほりり殿作りて使し
又渭より上り至咸陽は作して復道と
掛渡し其餘乃離宮別館咸陽三百里乃

内は流るる満義人鐘鼓とそれへの日に
かきりあゝる行幸あるゆゑ運ひしうらな
とよ事^{こと}是^{これ}を^ま備へ^まは^は始^は皇^はと^はあ
悪^{あく}虐^{ぎやく}人の怨^{うらみ}れあ^はるん^んを^をい^いふ^ふを^をう^うん^ん
覺^{おぼ}し^しを^を何^{なに}り^り又^{また}荆^{けい}軻^こ張^{ちやう}良^{りやう}を^をん^んと^とら^らる^るに^に懲^{ちやう}
ま^まれ^れの^の膝^{ひざ}と^とい^いて^てい^いる^る事^{こと}の^の出^いで^でん^んつ^つん
を^を人^{ひと}と^とた^たを^を何^{なに}し^しと^と思^{おも}ふ^ふ折^をし^しと^と盧^ろ生^{せい}し^しり^り有^あ
有^あし^し六^{ろく}所^{しよ}の^の我^{われ}身^みに^に居^いる^る處^{ところ}と^と人^{ひと}と^とあ^ある^るま^まれ

とく七百餘處乃別館之皆復道と流る
渡して其内城往來し行幸あるを成し
多^たくの^の死^し罪^{つみ}と^と定^{さだ}ま^まる^る式^{しき}時^{とき}始^は皇^は梁^{りやう}
山^{さん}宮^{みやう}を^を離^り宮^{みやう}と^と何^{なに}り^りて^て巫^い相^{さう}の^の臣^{しん}俱^ぐ乃^{なり}
多^たき^きと^とん^んの^の氣^き色^{しき}と^とら^ら丁^{てい}を^をり^りし^しと^と巫^い相^{さう}に^に
告^つげ^げる^るは^はの^のあ^あり^りて^て巫^い相^{さう}臣^{しん}俱^ぐ乃^{なり}
人^{ひと}減^{げん}し^しれ^れは^は是^{こゝ}の^の時^{とき}と^とら^らし^し
多^たくの^の有^ある^るあ^あり^りて^て其^{その}時^{とき}側^{わき}に^に居^いし

よのよは盡く殺しけり

匹夫きつぷ乃身み一人と怒あらしむ六腰よ

寸力すんりきと接ませしてたん單身たんあしく千里せんりれ

道法だうぽうゆらんよ怒あらしむとたけふんハ

あつ今萬乗乃身れ四海の人と臣

せし多盗賊殺害人乃世と怒あらしむ

とく束つれ間も安さふれく身とあひ

多難たなんと漢かんよき實ざいと只心ただこころの仁也

必かならずにめて敵國乃人れ親子のてしと誓

けり又兄弟臣民を怒敵とあひをれく

にそろしそハな多しそえんふらゆきハ

人君れ法身乃あがりゆを只仁の正徳

とそ千騎萬騎の勇士あを海さるんれ

必仁乃法政あらんやも十重二十重乃

兵衛へいゑとほら福ありと忠念人のあんし

うふりれあるゆきや匹夫れ人き怒

あつて心うへに世成後。あま
とらあふ

侯生盧生といふ二人の儒者始皇と信りて
逐電をきれ、始皇入る怒り、法生とてつ
拷問し四百六十人といふ儒者と皆阮院に埋て
殺しけり。長子授蘇諫られ、始皇怒りて
蒙恬の軍乃目封せしめて、進屋をせり
三十六年東郡といふ所を星おらて石を刻り

昔より武人先に始皇死して比多んせし
文字と切付多れ、其主より七氏と捕り
盡く是法諫し其石を焼捨を祭

三十七年始皇東國より遊覧し雲夢澤塘

浙江會稽といふ處より東南海に際て

石碑を立せりといふ徳と切付させり、河に

平源津といふ處ゆく病よそ十日と進てをり

これ三老の只死あるといふ事といふ事らひ事

身此後の事ハ汝汝也及ハ進ハリシハ今ハ
頼ルルヤ覺ルル中車府乃全趙高
母勅書と汝々々せ公を杖蘇ヨ後リて咸陽ニ
之リて葬のものと嘗めといハテ承旨
使者ヲ汝々守リて汝々其七月汝汝といハテ
母テ崩沛あり李斯の母を屠ハ皇崩沛と
聞多クハ世乃申回るりて二んつらん先
臨セトテ棺と輜涼車といハ車よ乃せ道

其より供御奉り公車乃奏園前んと為り
かより汝々ハ新多しハ胡亥趙高以下共
人乃外ハ知る者悉くりき趙高ハ官刑と云
ハリ其れあなをハ法律ト通リ多れハ
斬獄乃事と教よと云胡亥の師よ付られ
けハ武付眾あ有テ世家殺是と死眾ハ尚
事有ハハ趙高深ク是と遺恨ハ思ハハ
母をハハ蒙氏をハハ母をハハハハハ

其時より此物とと思ひ胡亥と浚命とを始皇
帝の作を備り公子扶蘇蒙恬と教へ胡亥
とより立んと企む所を承知しこれ等斯
初ハいかゞと志つる趙高よしいちを知られ
多同心し居りて備り此勅書をして
公子扶蘇蒙恬と色く所無矢といひて
死と賜る旨の下知とそ下し公子扶蘇ハ其
候日害せんを志しと蒙恬ハ亦う陛下某に

三十萬の人数を以て頭取きて四邊とせ
めい君其監と成るは天下ハ重職と
いひつへしと今かくも一人ハ使
りてか系作の由り心持ゆりぬ今一度ハ清
海見ゆりやといひたれハ父ありよハ
終らんよと志して後より有るべき
とく公子扶蘇ハ終る自害と志しける使
蒙恬とハ陽列とて處よる竟て

其由中は折良蒙毅之勅使よ出てくる
き教と請高かゝの如く謗言しく代と
不^りよ巨^り菴^りきりかく^り始^り皇^り乃^り柩^りと咸陽
小^り還^り幸^りか^り崩^り沖^り乃^り披^り露^りしく胡^り亥^りと位^り
はき多^り采^りけ^り孝^り是^りと二世皇帝^り也

か^り教^り棄^り嫡^り亂^り統^りの^り毒^り謀^り出^りの^り事^りと
愚^り多^りの^り社^り周^り乃^り成^り王^り大^り斬^り乃^り臣^り時^り人^りよ
杖^りら^りま^りの^り人^り冕^り服^りと^り石^り也^り之^り公^り百^り官^り張^り

石^りつ^りと^りひ^りと^り明^り白^り叡^り皇^りよ^り沛^り讓^り位^りあり
け^りめ^り九^り聖^り賢^りれ^りあ^り乃^りを^りれ^り涉^り提^り統^り
世^り乃^り才^り智^りが^りの^りと^り稱^りする^り人^りの^りま^り
あ^りらん^りよ^りの^りか^りの^りも^り又^りか^りの^り海^り
と^り忠^りん^りしく^りさ^りれ^りと^り忠^りん^りか^りの^りん
つ^りま^りと^り一^りく^りま^りき^り愚^りら^り孝^り出^りする^り事^り
あ^りれ^りの^り是^りに^りお^りひ^りん^りあ^りき^りな^りや^り福^り乃^り
い^り事^りあ^りらん

九月始皇帝と驪山乃りりよ葬送ありしを陵
始皇乃在位の時うま七十餘萬乃人夫と
必く管造ありて塚墳の内と銅を鑄
固め上めを日月星辰乃天文とありしを
山河大海乃地理成ありし機關とありし水
銀江流ありしを人魚乃燭とありしを
色乃珠器をありしを人乃瑠璃とありしを
車と忘れく遊つく者ありしを矢と射出候

機關はありしをありしをありしに理め
きありしをありしをありしをありしを
昔匠とありしをありしをありしをありしを
高し五十丈ありしを五里ありしをありしを
古今ありしをありしをありしをありしを
始皇帝は愚行難と知りありしをありしを
今更しありしをありしをありしをありしを
乃道ありしをありしをありしをありしを

と及諸公子大臣皆不審ふまへよ存心ぞんしん服
侍しやくらねときこしゆ子の下にいりねるあやう
出来ゆらんつらん安穩あんゑんなり家いへへ入いり時とき並
とまふ好ゆし深ふかく中なかに所ところらひいりゆとまわれハ
刑けい罰ばつと及およぶししま大臣だいじん宗室そうしつと初はつめり
先代せんたいの祥臣せんしんと七しちく陛下てんか此こゝ年とし頃ころ親みことと
思おもひあふりあつと乃すなはち用もちひあつつ枕まくらをさく
して所ところふを安やすくくくゆと中なかに實まことととく

いふれい ちんこく
法令いふれいと深ふか割わりよ書しよ改かい大臣だいじん家門けもんの人ひとと有あり
色いろこれ終しゆう類るいといひうも諸しよ高たかよ礼らい明めいと歩ふ
連れん枝し乃の男おとこ女よめ二十にじゅう二人にに人を磔はりつけよ掛かる色いろと
家門けもんの人ひとを身みれ色いろとろく戦いくさきと事ことふ
中なかよ孝たか心しん公子こうし高たかきと連れん枝しハおとろく
これあやう身みの姿すがた変か形かたちとやあまけん
始はじめ皇みかど乃の殉じゆん死しせんしと中なかに二世にせと後ごの事ことと
諸しよ高たかにがく中なかにいひあふ色いろハ所ところらひいり

人く己^{との}二命と敵^{とく}よよむ^{とく}はく^{とく}らんよ
於^{とく}何事と^{とく}仕出^{とく}し^{とく}か^{とく}入^{とく}き^{とく}と^{とく}中^{とく}も^{とく}心
去^{とく}後^{とく}又^{とく}始^{とく}皇^{とく}統^{とく}よ^{とく}六^{とく}國^{とく}と^{とく}亡^{とく}し^{とく}て^{とく}下^{とく}と^{とく}一^{とく}統
あ^{とく}る^{とく}上^{とく}い^{とく}人^{とく}意^{とく}か^{とく}く^{とく}息^{とく}と^{とく}は^{とく}う^{とく}ん^{とく}と^{とく}思^{とく}へ^{とく}る
に北^{とく}乃^{とく}方^{とく}白^{とく}奴^{とく}と^{とく}討^{とく}し^{とく}張^{とく}初^{とく}と^{とく}して^{とく}南^{とく}五^{とく}嶺^{とく}
北^{とく}青^{とく}兵^{とく}驛^{とく}山^{とく}河^{とく}房^{とく}の^{とく}遠^{とく}管^{とく}あ^{とく}ん^{とく}と^{とく}僅^{とく}曰^{とく}五
年^{とく}乃^{とく}間^{とく}よ^{とく}て^{とく}下^{とく}の^{とく}人^{とく}吏^{とく}百^{とく}万^{とく}十^{とく}萬^{とく}人^{とく}と^{とく}若^{とく}し^{とく}か
は^{とく}う^{とく}ひ^{とく}又^{とく}二^{とく}十^{とく}七^{とく}年^{とく}と^{とく}孝^{とく}之^{とく}十^{とく}七^{とく}年^{とく}中^{とく}て^{とく}十^{とく}年

の間^{とく}南海^{とく}隴^{とく}西^{とく}會^{とく}稽^{とく}碣^{とく}右^{とく}等^{とく}此^{とく}又^{とく}數^{とく}子^{とく}里^{とく}
乃^{とく}遠^{とく}き^{とく}とい^{とく}を^{とく}巡^{とく}行^{とく}を^{とく}し^{とく}る^{とく}凡^{とく}六^{とく}ヶ^{とく}夜^{とく}
乃^{とく}中^{とく}し^{とく}六^{とく}民^{とく}の^{とく}あ^{とく}を^{とく}紀^{とく}い^{とく}らん^{とく}し^{とく}如^{とく}し^{とく}
七^{とく}年^{とく}二^{とく}世^{とく}即^{とく}位^{とく}せ^{とく}る^{とく}や^{とく}い^{とく}の^{とく}や^{とく}又^{とく}碣^{とく}石^{とく}の^{とく}學^{とく}
海^{とく}つ^{とく}き^{とく}ひ^{とく}よ^{とく}數^{とく}子^{とく}里^{とく}と^{とく}渡^{とく}り^{とく}て^{とく}會^{とく}稽^{とく}に^{とく}遊^{とく}
境^{とく}に^{とく}加^{とく}え^{とく}河^{とく}房^{とく}宮^{とく}と^{とく}は^{とく}ら^{とく}う^{とく}果^{とく}ん^{とく}と^{とく}ま^{とく}ん^{とく}く
人^{とく}吏^{とく}成^{とく}かり^{とく}出^{とく}し^{とく}又^{とく}其^{とく}警^{とく}固^{とく}乃^{とく}し^{とく}の^{とく}と^{とく}あ^{とく}と^{とく}あ^{とく}
五^{とく}萬^{とく}人^{とく}の^{とく}武^{とく}士^{とく}と^{とく}百^{とく}集^{とく}め^{とく}ま^{とく}り^{とく}上^{とく}り^{とく}物^{とく}馬^{とく}

會^{きん}歎^{ごう}乃^な個^こ糧^{りやう}りん^ん等^ら諸^{しよ}國^{こく}より運^{うん}送^{そう}せり
め^め程^{ほど}より^{より}天下^{てんか}乃^な困^{こん}窮^{きゆう}せし^し不^ふ慮^{りよ}ふ
詞^{ことば}意^い所^{ところ}の^の決^{けつ}り^り進^{しん}と^と宗^{そう}室^{しつ}大^{だい}臣^{しん}より^{より}今日^{けふ}
乃^な命^{いのち}の^の危^{あや}未^み始^{つひ}し^し也^{なり}お^おり^り系^{けい}祖^その^のも^も
一^い化^け仕^し重^{じゆう}なり^りハ^ハ諸^{しよ}國^{こく}ハ^ハ官^{くわん}使^し公^{こう}用^{りゆう}の^の事^{こと}
つ^つ手^てに^に眾^{しゆう}か^かう^うし^しらん^んる^る乃^なに^にそ^そ海^{かい}に^にさ^さし^し
落^{らく}ち^ちり^りハ^ハ宥^{いう}教^{きやう}色^{しき}なり^り重^{じゆう}なり^りハ^ハ保^ほよ^よ民^{みん}乃^な
子^こ足^あの^の重^{じゆう}なり^りし^し乃^な乎^か世^せ中^{ちゆう}と^と加^かし^し初^{しよ}た^た

始^し皇^{かう}帝^{てい}死^しし^し僅^{けん}一^{いつ}年^{ねん}也^{なり}乃^なハ^ハ七^{しち}月^{げつ}陳^{ちん}勝^{しやう}
兵^{へい}廣^{かう}う^う兵^{へい}に^にあ^あり^りせ^せれ^れハ^ハあ^あら^らも^も謀^{ぼう}反^{はん}と^とし^し子^こ
祖^そを^をあ^あま^ま國^{こく}に^に此^{こゝ}若^わ者^あと^と志^し年^{ねん}來^{らい}日^{じつ}と^とら^ら
小^{せう}く^くう^うら^らめ^め也^{なり}思^しふ^ふ官^{くわん}使^し如^に事^じハ^ハ前^{ぜん}に^にく^くそ^そ
か^かし^しと^と多^たあ^あら^らず^ず也^{なり}兵^{へい}を^を失^して^て危^{あや}し^し守^{しゆ}令^{れい}と^と切^{せつ}
穀^{こく}一^{いつ}復^{ふく}か^かし^しこ^こら^ら字^じ家^かと^とさ^さし^しと^と旗^きと^と
立^たて^てて^て出^しる^るの^の教^{きやう}と^と知^ちら^らハ^ハ關^{くわん}東^{とう}へ^へ
張^{ちやう}向^{かう}し^しら^ら使^し者^{しや}追^{しゆ}て^てに^に仰^{かう}り^り集^{じふ}り^りて^てそ^そ中^{ちゆう}

怒人乃怨のほのろくし秦れ滅止
せんなる時前を来せりとふいひあふ
今日乃遊ひの妨となふく若くそく
明日れ敵身乃成行よ心を快くそ
留めあふりゆる叛亂のり成た
きうんとま心せぬ二世皇帝れ暗者の
不とくを漢よりあまき

陳勝を楚國陽城といふ不乃人あり家

負くく人よやとまをく田畠作りて世
とまうけ字或日固く業す教よのや
畔乃よよいしひてりて富貴あらんよ
つとれかせ角といひれハ秋まり今の家
身れ何と富貴せ中とくく人こそあそ
知い事終世時吳廣せとりの昔兵と宰相
しき中漁陽といふ處よ向ひまふり大澤
郷よあり大雨よ逃く通津よえ日限に

とくましく斬^{ざん}罷^{ばい}よ^ま 虚^ませう^ま 斬^{ざん}下^かと見^{けん}し
弟^{あに}れい^{あに} 人^{じん} 控^{かう}合^{かう}し^あ 多^{おほ}つら^く 世^よ乃^の有^あ 衆^{しゆ}と
見^{けん}ふ^にて^し 下^かれ^ん 秦^{しん}の^の 攻^{こう}と^うと^みら^して
多^{おほ}く^せい^し 所^{ところ}や^や 素^そ懐^{くわい}と^と 遂^{すい}ん^とと^と 恵^{けい}大^{たい} 婦^ふ
と^と 刺^さぶ^ろし^し 着^{ちやく} 兵^{へい}よ^よ 向^{むか}く^く いう^は 殿^{てん} 原^{げん} 腕^{うで}に
日^ひ 限^{かぎ}よ^よ と^と くら^く 久^く 々^々 れ^れ 六^む 十^{じゆ} 七^{しち} 日^{にち} 也^{なり}
孫^{そん} 進^{しん} ん^ん の^の 一^{いつ} 定^{てい} め^め ら^ら ず^ず 多^{おほ}く^く 志^し と^と 度^た 首^{くび} つ^つ ぎ^ぎ
寺^{てら} り^り と^と 志^し を^を 固^こ よ^よ 互^{あひ} 背^{せい} して^{して} 十^{じゆ} 六^む 七^{しち} 日^{にち}

死ぬ^{しぬ} と^と 了^{りやう} せ^せ き^き け^け 屋^や と^と れ^れ も^も の^の こ^こ め^め ち^ち ろ^ろ ん^ん
者^{もの} の^の と^と も^も を^を 死^し せ^せ ら^ら ず^ず せ^せ ら^ら ず^ず 若^わ 及^{およ} 世^よ に
向^{むか} く^く 登^{のぼ} る^る 王^{おう} 侯^{こう} 将^{しやう} 相^{さう} と^と 終^{はつ} 乃^の 別^{べつ} 也^{なり}
有^あ り^り ぐ^ぐ 中^{ちゆう} 堂^{たう} の^の 中^{ちゆう} へ^へ 入^い り^り ぬ^ぬ べ^べ 一^{いつ} 回^{かい} 也^{なり} 西^{せい} 伯^{はく} 也^{なり}
と^と 終^{はつ} いて^{いて} 見^{けん} る^る 所^{ところ} 折^{せつ} し^し て^て 下^か れ^れ 人^{じん} 公^{こう} 子^し
杖^{さう} 履^り を^を 失^{しつ} 又^{また} 遂^{すい} じ^じ する^る と^と い^い 事^{こと} あり^り け^け ち^ち り^り の^の
い^い 事^{こと} 也^{なり} 世^よ 乃^の 命^{めい} せ^せ ら^ら ず^ず 世^よ の^の 中^{ちゆう} へ^へ 入^い り^り ぬ^ぬ べ^べ 一^{いつ} 回^{かい} 也^{なり}
何^{なに} ぞ^ぞ 又^{また} 項^{かう} 燕^{えん} を^を 代^{だい} へ^へ 楚^そ 國^{こく} の^の 大^{だい} 将^{しやう} 也^{なり} 人^{じん} 也^{なり}

おのひはきいふれい世あ人の名をかきとて
公子扶蘇項燕昭るそと名をきと旗とそ
河をきりけるをりて不潔郷とせめれ
續ついでも斬き乃城と志落し追てに名ある
人ぬ池加りりて陳ちんよぬる項きやういふやそ誓
數萬人とそ圍とりこむする張耳陳餘といふ二人
乃者と池ある陳勝子しやうく智謀ちぼうある者
きとをれい厚く是とりてねしけきかて

陳勝家とありら王堂ありて張楚と號し
諸將と子配しと趙乃國へ陳人武臣と
張耳陳餘と誅多しし名魏乃國へ
魏人周市と指而て國と觸りしけ相又
陳人周文ハ強又軍法小訓練しこれいそ
秦乃都咸陽城うておて向ふるれいに
周文道まゝ勢自く車千乘兵數十萬
咸陽間近き戲亭いふ所して推家より

二世大又作天一^一
 馮少府章邯に大將とせ
 驪山乃人吏といひ^一
 教こようらあされて引つと八月張耳陳餘
 武臣と取ま^一
 趙王^一陳勝怒りて武臣の
 家族と殺さん^一
 房君といふもの
 あり^一武臣の使
 あり^一西乃方秦と討て^一
 張耳等いふやう今夜陳勝と等^一
 張耳等いふやう今夜陳勝と等^一

使^一多^一一定謀と^一
 西よむきを^一
 南ハ河内^一
 等と^一
 九月漢乃高祖^一
 百姓^一劉氏^一
 田^一沛^一豊邑^一

おもしろく隆準龍顔とて西は龍の如く
形も骨法備はは鬚をくくうふさく
た乃は股よ七十二は異子あるあんと色く
のめを母を記異相傳もは心優よわく
人と愛し絶と好む龍如くく大度あま
細水は亭の長とく信をぬらひ或時
咸陽にて始皇帝乃は幸此を依とん
あひとのこハ誰かうくあまをんれそ

といきと好むとてははさあま岩公といふ
人人相とくくくくくしり高祖をんあ
せくよ老心形を貴き相あるとあ女を
まいつ歩も祭後よ孝惠帝と尊先公と
誕生の字呂后とせし后を別姓人也
其後高祖驪山の人夫と宰候してお立
終ひく道とくく人夫と多く逃り
六彼よあらん頃ハ強弱く逃うせあんと

あま豊色は西乃旅屋の中より酒を
のうてかこくも皆逃れ家ホも是より
立退んともあひられ若殿原十将人
誰こと此儀中さんとも一回は歩連く
夜多深更は不澤乃中にかももあ
道は大蛇の横りありしとも祖折しを
酔の出来りしも剣と抜くもも二に
切られくも通るあひられと書くもせ

あまの太蛇乃より又一人は充姫
いづきそ我子ハ白帝れ子取りもあ
赤帝乃子よきも書きもあつとくは
后きりしと怪しとあむて答んもせし
かきあんとく失あけも又東南の方に
天子乃雲氣してりともせしわも始
帝是と聖書せんとも東國は乃幸あり
帝れ乃祖也碣石よりあ乃山澤の間



身と隠し居るひしとそよよきに
 雲氣多かりしをいひつを夫と
 ありしに尋出し氣をいひつを夫と
 乃事と志願傳へありし付よる者
 日と遊く多かりしをいひつを夫と
 七月陳勝たたりて楚王とありし月
 武臣趙王とありし一撰解記の
 一閑し一六沛の令と陳勝よ一味せん

この企の孝蕭何曹参の人の縁
 乃そよめにありし高祖と迎へ居るに
 高祖の時子勢脱る數十百人よ及し一六
 沛の令ありしとありしとありし
 後梅一城をとり入るる宗高祖矣
 父と城中よ村と沛の父充小事此利害
 張喩しあり父充をいひつを夫と沛の
 令と教し高祖と迎へ居るにありし

け教蕭何曹参かあ海をりて勢と催し

之ふりかり意有し六赤旗赤幟は

あましく義兵乃色とそ立をまふ

天道^{てんどう}うまそ下萬民とあつあつん

こと果報^{くわくほう}吉瑞乃かくいやはかり

あふ津門^{つもん}の心れ上城よましく目と

はまへさ事あそあふ只寛^{かん}に大度

也優^{ゆう}よ座はしく人と毫^ご一施と好

光^{ひかり}まふとくをあそ一あまこれハハハ

一丁^{いちぢょう}を幾億^{いくいぢ}千萬乃人の内うま

一人^{ひとり}かふめくあ紀天れ心顧^{こころを}を反

蒙^{もう}りうひ漢家^{かんか}四百年生民^{せいじん}の安穩^{あんゑん}と

遂^{つい}了る法^{ほつ}基^{もと}めそあ教

又案^{あん}するに時^{とき}項羽^{きやうご}とそ一免兵と

記^きす一人てい皆^{みな}そ下れ全^{ぜん}あうんと

かりえ所^{ところ}るい何^{なに}もそあ一^{ひと}はま

其のそみ叶いしとくわろをうり夫と
いふと思ひあそんよき凡そ彼の年
定項羽とらめ諸將乃そらひと成
一くあうんらんよき權よ掛く
見教一くよあある也

引續く同一き月項梁項羽田儼韓廣
魏咎宛と敵意くとあてし月項羽名ハ
籍楚國下相とて子處乃人ヲ祭ハ孝子の

叔父と項梁と以て楚乃大將項燕の子とて
関一人を殺しする事阿孝と其敵と
内きんとく項羽と連て吳乃武よ立退
居りし吳の名あふ士とよよ立よのハ
明りき項羽若き時子習劍術と學ひて
皆學ぶ果てしとてんそ項梁の外に
あうりきれハ武跡ハ姓名とてたかハ事足
為一劍術ハ只一人よしを掛合ハれ學ぶ

和の事よあらしと美人を御合んす
送賦よあらしとよゆへしひまれ、項梁
ゆへしと軍法とて教ふる項羽人よ悦て
和その大意と惜りせれと志是と堂いハ
果てしむき始皇帝漸江よ仍幸あり
時項羽是と見物とて渠と一夜かゝる
るふととらひもまゝ項梁あかるとら
とあまやよとてあてられと心よハ
と

りの如く次とよらてむけ孝項羽所の長
八尺二寸志と昂と仰る仰よの力量あり
勇氣才覚舞よ勝進と人皆是とて
憚けるかゝるあは會稽の太守殷通陳勝
り起ると圖と一味せんとか項梁よ徒合
あは項梁よあはるはる沙企よゆと
項羽とやうて桓楚とよ者よ呼あると
項羽とめしと進んすは定目と色あるとり六

項羽つと一兵と一弁又殷通と切殺
人こそ是れと駭き立し張項羽の子の下
數十百人切倒し今ハ敵討者もあきれハ
急ぐ知り多敷古兵と召集て兵とあこ
せ教子細と治り吳中の勢と借し又
屈強乃若武者ハ人弛集りされ項梁
もろろ會稽此守となし聚て項羽と裨
將也志をとりけ張項羽共時二十日とて

圍く多る次ハ齊王田儻ハりこの齊王ハ
一族あり從弟田榮田横也とて家柄
相違ハ人志思ハ付りきかふ不ハ周市
陳勝り下知りしと圍くと始まるを以て
秋縣はむりし六田儻折しそを以て思ハ
下部一人召搦め公ハ中傷と首と刺んと
拔るし若者少く召具し縣令の館に
としかあくと矢危と秋乃縣令と殺す

ふりくろ齊王とてあつりも家相又燕の
韓廣を趙と武臣と下知して燕の地を
向ひ申さる燕の人と申すも夜立さ
燕王とて周市ハ魏の地と平均ハ公子咎
とむ久と魏王と長九月廿一月と申す
かそはうりれ漢敵五頭樂とあつりつ
おて起り陳勝武臣とあつせく七頭の
ふこと初り共作秦嘉朱雞在鄭布

丁疾めんといふ名とあつるあゆまことの
おひくろ旗とあつる後かこらま
おて出まぬ知とに僅二月間ハ関の東ハ
麻乃みされとあつるあつりま

凡人を命とたれ心れあまはつて
おとあつりあつるあつりあつり
ふ乃絶あつらんふと何乃おあつり
思ふ心のあつりあつりあつりあつり

二世とおもひつゝ一も思ふものいふ一人と
なりて其の心志はうそ目の茶なる
論使の臣の朝夕にこれかいつあハ
てう下れよの威と怒り事ハ難と
かくしてあつめを思ひ安閑とく
四乃不ろ物とすう居る二世の
心持あつめき

二年 楚懷王 十一月章邯流石光将にれん

周文と逃つめて終よ灑池まで討たるり
呉廣ハ滎陽を攻めり李由といふく
防とあつて子と見えし其裨将田臧
呉廣と殺し進んで秦と戦ひしり
是れ終よ討たるり滎陽の本將李良
洛頭まで趙王に嫁よ進く趙王ありと
思ひ平伏しあつてに嫁けしと酒を
酔て會釋乃禮義をねく通るをれハ

是と恥辱ちじよくにありひ進しんけて切殺きころし終はる
銷しょうと武臣ぶしんとと攻こうつらひ張耳ちやうじ陳餘ちんよハ幸しゆ
き命いのちと助すけりて辱はらうくに逃にのむまり
二世にせゆとく兵へいとあらうく日馬ひま飲いん董どう毅い
と章ちやう邯か加か勢せとて楚そよ向むかひ楚その柱ちゆう
回くわい房ぼう君きんと討たうた又また陳ちん乃の西せいめと張ちやう賀かと
かる辱はらうりて首くびとを陳ちん勝しやうと張ちやう賀かと同どう
ききめ出でけるる軍ぐん破はままく海うみ陰いんよゆき

又また引ひくく城じやう父ふよ切きりし時ときの沖おほ者しや
莊しやう賈かとし者しや陳ちん勝しやうと殺ころし陳ちん乃の城じやうを
明あきめ隊たい人にんあらい出でよけ陳ちん勝しやうの涓けん人にん
官くわんの名な呂りょ孫そんとしの蒼そう頭たう軍ぐんと歸かへり
多た旗きとあらむ莊しやう賈かと攻こう殺ころして陳ちんの城じやうと
取とりし陳ちん勝しやうの莽まう侯こうといふから陳ちんとと
疆きやうとし先せん陳ちん勝しやうと回くわい昌ちやう行ぎやうり
よよのし親しんとし左さ達たつと陳ちん勝しやうの

王定如多りと園く歩連々母来りしに
らしたれく物しひりありて威光と損
去るを是と殺しをれ^{きり}の^{えい}心^{てい}
形うと毒心とゆるは者もれく又申正
司造^{しそ}あんと心官と置く諸将といふ
糾^たさせし人くあいはりし兵を
殺^{ころ}しし孝^{むすこ}僅六月といふよかふたりの
外乃事いふはくあはく身とハ失ひ

け孝はまを其下初蒙りあむ諸大物終ま
秦と止し^あれ^ひ天晴未代の言^{ことば}名^なとそ人
くも^も系^{けい}春正月張身陳餘趙乃強黨數萬
人と驅^う集^{あつ}李良と討破^うり^あ趙歇と立く
趙王と^し秦乃勢又陳乃城と攻^うる^は呂臣
あ^いふ^ふ英布^{えいふ}軍に逃^{にげ}り^ま是と執^と
又陳と^は九^こ之^し英布^{えいふ}六^むと^し鹿^かの人
形^{かたち}り^ま眾^{しゆ}河^がを^く懸^かせ^られ^あり^しり^は又

是と臨^{ザイ}布^フと志^シいひきりき^リ驛^リ山^{サン}の吏^シ役^{ヤク}
小^コ厨^{チュ}をま^マけ^ケけ^ケら^ラ江^カ中^{チュウ}を逃^{ニガ}ゆ^ユして強^{ガウ}盜^{タウ}
乃^ノ頭^{トウ}とな^ナ祭^{サイ}子^シ勢^{セイ}數^{スウ}子^シ乃^ノ及^キひ^ヒり^リ昔^{ソク}陽^{ヤウ}
れ^レ今^{イマ}兵^{ヘイ}芮^{ズイ}江^カ湖^コの^ノ間^マの^ノ人^ニの^ノお^オり^リい^イつ^ツき^キ
多^タり^リ也^ヤ関^{カン}ゆ^ユき^キて^テ對^{タイ}面^{メン}に^ニ兵^{ヘイ}芮^{ズイ}女^{ニョ}と^トな^ナれて^レ
督^{トク}と^ト新^{シン}秦^{シン}と^トな^ナり^リと^トく^ク兵^{ヘイ}子^シ勢^{セイ}と^トな^ナり^リ
英^{エイ}布^フに^ニ託^{タク}り^リ景^{ケイ}駒^{クマ}其^シ時^ジ秦^{シン}嘉^カよ^ヨり^リ立^タ
存^{ソン}從^{ジュウ}く^ク楚^ソ主^{シュ}と^ト号^{ガウ}し^シ留^{リウ}と^トい^イふ^フ如^ニよ^ヨき^キ

六^{ロク}馬^マ祖^ソ彼^ハり^リ許^コよ^ヨ執^{シツ}を^ヲん^ンと^トく^ク遊^{ユウ}す^ス
初^{ハツ}も^モ張^{チヤウ}良^{リヤウ}よ^ヨ乃^ノ逢^{ブウ}の^ノハ^ハ既^キぬ^ヌと^トい^イふ^フ穢^{タイ}
め^メを^ヲ補^ホせ^セし^シれ^レき^キふ^フ張^{チヤウ}良^{リヤウ}字^ジハ^ハ子^シ房^{フウ}韓^{カン}の^ノ
人^ニに^ニ黃^{ワウ}石^{シツ}公^{コウ}と^トい^イふ^フ老^{ラウ}人^ニよ^ヨ太^{タイ}公^{コウ}の^ノ兵^{ヘイ}法^{フウ}と^ト
傳^{デン}り^リ六^{ロク}尾^ビと^ト世^{セイ}よ^ヨ月^{ゲツ}ひ^ヒと^トや^ヤ也^ヤ也^ヤハ^ハ彼^ハ方^{フウ}
婦^フ也^ヤと^トい^イふ^フ心^{シン}と^トい^イふ^フ人^ニ也^ヤ
お^オり^リは^ハ兵^{ヘイ}の^ノ法^{フウ}の^ノ如^ニき^キと^トい^イふ^フ人^ニ也^ヤ
多^タき^キり^リの^ノ謀^{ボウ}と^トい^イふ^フ一^{イツ}の^ノ實^{ジツ}也^ヤ

好天也^{えん}乃授^{なづけ}乃とく始^{はじめ}終^{はつ}は

西^{にし}乃^の世^よ乃^の祭^{まつり}

好^{この}漢^{かん}と知^しる也^{なり}乃^の唐^{たう}土^ど乃^の

俗^{ぞく}乃^の孝^{こう}又^{また}人^{ひと}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}

古^こ乃^の詞^し乃^の孝^{こう}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}

事^{こと}乃^の家^け乃^の智^ち乃^の及^{およ}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}

乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}

乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}

乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}
乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}乃^の知^しる也^{なり}乃^の漢^{かん}

ト母やおま張良ハ王者ノ師なる
魚父人ガれハ王者ノ智ヲ家人ガ
コトセバと其言葉ハ此ハよクあり
ハハ其ハ時張良ハ親トよりシテ
給ルん君ハ天ノ下ニ只シテハ高祖ノ
傾キテハいハ路ハ臣ハ只張良ノこトモ
何ハ知ル人ト則チ哲ト能ク官ト人トとシテハ人ト
矣ハ此ハ天ノ下ニ事ハ多クありハ其ハ感ハ分トしテいハん

人ト知リテ官ト授ケ給ル事ハ外ハ
あリ人トありハあリんハさハ智ハ乃チ
考ヘをシトハむシんハ事ハ外ハあリ
凡レ智ハ乃チさハいハ事ハ外ハ智ハ人ト神トなるハ
何ト恭ニ惟ニハシテハ
神ト乃チ神ト智トとシテハ内ニ年ハ七ト旬トにシテハ
越ステハ下ニ一ト統ト一トをシテハいハん
猶モ其ハ智ハのハ事ハとシテハ給ルん

よの心怠らせ玉ふのうそ元和
乃秋都らまらうらんそ氷口
此説あきをるまらうられて此道も
有し此はましく少と論語と續せて
きこしりやまらふんとも何り此
是とみく知人の内鏡百王よあえ
海うみく一世乃雋傑と網羅あひ
かたれらまらふ記此基とそ用あひる

かく多高祖ハ景駒う下知とうけて秦と
戦ひあひかれと利あつらうハと何と
うして碣乃城と攻落し六千の人数と
得て那合共勢九千人とを関する家小
廣陵の人百平あやひと少者陳勝う下知を
うる廣陵と觸ふれむむをふら陳勝やま
多り定國と江水と後と陳勝う作
なりとも項梁と反楚れ上柱國と相

いそ紀秦よ討く向ひあつととらめしう
項梁はらふとま江東乃若武者八千人と
引率し江をとりて西出さしてせ
ららかり居るを陳嬰英布めん
池加り兵勢脱よ六七萬と関ふら項梁
ひあやう陳勝一書よ兵とあを起れと
一旦利と失ひ多きといま生死を
ころに秦嘉の景駒と立く楚王とせしむ

大道を道とつしとと秦嘉景駒を
攻殺し高祖薛めく項梁よ對面あり
ハ豊乃城を攻元をまるとと勢と分て
まひらせけ孝居鄭乃人范增とい者
齡己よ七十小多智謀多く向し
けりし項梁よ逃くつやう秦の六國
と亡し時楚を眾あくゆ吏りよ懐王
秦よころいささめゆりめとありしハ楚人

今よいあるましくはつしほしとたれをぬ
まのハねくゆるを度楚國蜂起ちゅうきのんこれ
君小なむきゆつし事ハ天の代たい楚の
大将好まハ楚れ此子孫と守立経らん
つらめとらんまるゆと見くまゆつし
これとを解るつし楚乃懐まれ孫まご
名を心こゝろといつる羊やうと何なんといあるつしと
尋かハ楚乃懐まとあつめて肝かん胆たんよ

都と定め陳嬰と上柱國と項梁と
つ武信君ぶしんと号しけ於時張良
項梁に勸すすむ韓乃諸公子しよこうし横陽君を
まま韓とつしとのま司徒しととありて韓の
比と觸ふあむるつし章邯既ハ陳勝を
やゆり兵と進て魏とつ魏と外周
市と成りて齊楚の加勢と成りて宋
一い章邯ちやうかん散さんくにちやゆり周市ありて

齊王田儼と付九しうの魏王とてうるひと
焼死けり魏王は齊魏豹逃のてて楚よ
ありもれと又魏とてうるへせとて殺す
人数とてさるるりけり齊乃ちよの故に
齊王建り齊田假とてさるる齊王とて田儼
齊田榮又田假とて進のけり田儼り子田市と
立く王とありむとれりてと諸國一擧
記乃ち執進く都よは進ありて二世大よ

勢き李斯三公の位よ在れりといふは
かく凶徒と横はせしむるをいふ外よ
逆鱗あり李斯思まてて二世乃ち氣色と
ありんとて智責の術と人とありり
ありてとられて二世悦ひてて刑罰と
をさしとて衆衆るゝの数を知らず
死人日とて市の中よ積上りて秦の民
歎乃ち悔り一日を心とて敵の歩入りと

おのゝめよのそねりもま

さしつひ凶卒お續米乃直之百錢有
造と都間迫き而といとまゝ俄死人
多く出来りしりあつしに肌まつさ
多のめとまおあてかあ時よハ亂の
託らつたの家ホりはよわめもとい
事ハ新しきことまを亂のあま
ねらつ一日ま早くいとよよか

中河ひある事誠よのあつら形
りまよおとあしき半よ社あ
爰小郎申令銷書出頭と鼻よのあて
世と世とまと思つて私のま執とあ
人と殺まも数と知らに執政大臣乃
そのよ二世よ誅んちと思まて武時
二世よやう天子乃尊とやハ群臣此
け面とんまの事れをまればな祭今

朝廷よ出御ありて萬よ可侍仰の道理
よ何ららける事れらんよ人乃侮り
端よ水深く禁中に居あひて果又そ
法合よ心泣多る者と由法合の上事れ
決定志を返りて改道よ水深りかく天下
神明を伴ふ中ありとしひたれハ二世
實ととく朝廷よ出るといふるハ終
何事しとて請ふり計いとそ成るけ

或時趙高李斯よつやうハかく凶徒
蜂起をふりて人吏とかあへく
阿房宮と造らるるハ以乃外の由僻る
やうそぬハ某いふとあひゆも身賤ルハ
諫中事とうあひれは是傳よ貴殿の
法威分よゆつとやしらひたれハさあそ
そん別と帝深く禁中よ居を留ひて
まみえ中流よのうを流ハハハハ

何れいよき折を伺ふ事ありせしんとき
其後二世乃酒宴の事なく世の衆は
満くてもいざ遊人亦中と伺ひてそ
ふ紀折より中へせりし李斯有りは
李斯いそ紀ありて二度より中へ入れ
二世大に氣色と損し我眼の事紀よ
ありとせとが家衆の折は推衆と
しそ奇懐好まぬと若輩好むとおし

悔るめわとよかれハ趙の事やうせん
汝其乃此事渠より己の功あり
其心底不領賜りて主ありん事と
見しては又内しうけ給りゆし其子李由
之川乃守より出徒と内通はるを
関しゆといふことひあつて譏言と
あありけりゆは関糾せしを趙に
まうせらる李斯のかくと事不知り右丞相

馮去疾等とすに此前より盗賊乃
おこふ事ハ吏役のちけり此と作事此
あま此とよふふとんくハ阿房宮乃
造管とやめ四これ昔兵ととつと
諫めこれハ二世ハ乃知る逆鱗の字逆賊と
搦め進とら半とつふとん先帝れか
乃と何ま一とと歩ん此ハ糸心坊
不可よ下とと此明ととと石搦て禁

獄せられ趙高よ命して其子孝由ハ凶
徒と内通とら執糾同あふ趙高ハ乃
一門のこらハ石捕くさ向ハ小ハ同ハ
李斯志拷同ハ地ハ子とととととと
落れれと流石心よ覚くなまこれハ獄乃中
ら孝上書ハ後誅中せりや趙高ハ九捨と
養國せれ又とのハ家人とハ吏竭者あんと
ハ官人ハ仕立とと立かとり入り糾同

世に少^ま少^まは中^{ちゆう}卒^{そつ}ふ時^{とき}はは^はは^は考^{かう}問^{もん}
あるは其^{その}後^{のち}二世^{にせ}ありと^とい^いて^てい^いて^て
人^{ひと}と^とや^やい^いて^てい^いて^て李^り斯^し又^{また}先^{せん}の^の
者^{もの}と^とい^いて^て心^{こころ}得^{とく}と^と責^{せき}と^とい^いて^て若^{わか}し
さ^さに^に中^{ちゆう}卒^{そつ}ふと^とい^いて^てい^いて^て二世^{にせ}は
い^いて^てい^いて^て疑^ぎふ^ふと^とい^いて^てい^いて^て祭^{まつり}
と^とい^いて^てい^いて^て李^り由^{ゆう}い^いて^て也^{なり}討^{うち}死^し志^しと^とい^いて^て
い^いて^て謂^いふ^ふ偽^{いつはり}り^りれ^れ白^{しろ}状^{じやう}作^{つく}る^る謀^{まわ}反^{はん}と^と投^な擧^げて^て

重^{ちゆう}科^かに^に鼎^{てい}し^し李^り斯^しよ^よ五^ご刑^{けい}と^と備^{そな}へ^へ咸^{かん}陽^{やう}の^の
市^{いち}め^めく^く腰^{こし}斬^{ざん}と^とい^いて^て胸^{むね}叩^{たた}く^くと^とい^いて^てい^いて^て
教^{きやう}し^し後^{のち}類^{るい}あり^りと^とい^いて^てい^いて^てい^いて^て孝^{かう}

六^{ろく}經^{けい}ハ^ハ智^ち人^{にん}の^の末^{すえ}代^{だい}並^{びやう}世^{せい}あり^りと^とい^いて^て
太^{たい}平^{へい}と^とい^いて^てい^いて^て位^いを^をん^んと^とい^いて^て至^し仁^{にん}の^の也^{なり}
心^{こころ}と^とい^いて^て書^{かき}の^のこ^ころ^ろを^をい^いて^て文^{ぶん}を^をい^いて^て
誠^{まこと}よ^よし^し萬^{まん}世^{せい}生^{せい}民^{みん}れ^れ命^{いのち}と^とい^いて^て根^ねを^を
い^いて^て李^り斯^しを^をい^いて^てい^いて^て燒^や棄^す

多々年ハ千萬世の人ハ余いのち此こゝ根と
キリキリヤヤ（）キリキリハ身に
五刑と備そまへて腰斬せられきりて
多いん世せい生民の腹はらハ猶なほと居ゐて敢あへ
かく多い趙しやう言ごんと中丞相ちゆうじやうと政事せいじとまを
まし趙高しやうこう權威けんいと為なよせんとなん
群臣ぐんしん乃なほん張ちやう也えとてんん（）と或時あるとき鹿かと
馬ま明めいり也えとひく二世にせと敵たてまとく二世

知ちく是こゝハとこれ誤あやまりて正ただし
麻あとんゆる（）といふと趙高しやうこうの人ひとに同
きれと或あるハ口くちと銅どう也え分ぶん明めいり（）と中ちゆうと
多い心こゝろの多い又また鹿か也えとてやと有あるハ趙高しやうこう
とそつた麻あといふものよ眾しゆうとあつても
不ふとよ其その後のちハ群臣ぐんしん皆みなおら必かならずと趙高しやうこう
事ことととがう（）以もつ者ものとてハあつりきとて
項梁きやうりやうハ二に多い公こう秦しん乃なほ軍ぐんと破やぶて驕たごりて

顔色見し多り一六戦勝と將驕り
率情さよのハ敗るや中次本文の如く
宋義ヲ諫しとをきりし多り一葉れ如く
定陶めく人よ章邯小切崩されく討
死に懐まかくときて盱眙の都に多り
沛彭城と都と遷し項羽呂臣あるは
勢とあせせしめく其大ゆし項羽と
魯公とを多りける章邯既し項梁張

討九て楚國の凶徒はごせ類事めま
河は流し思ひ取てうし北の方趙は打て
ふえ邯鄲城と攻落し張育趙王と伴ひ
鉅鹿乃城よ逃薨しと王離章邯透間
外く追うととく鉅鹿とをく圍られ
趙王多りしに懐まよ加勢とそ敗るふ
初懐王諸ねと約しと一番の関中は切入
多らんめのと秦乃王とせんし定まれと

秦乃兵^{へい}を成^{なり}強^{つよ}りければ^{なれ}難^{まじ}先^{まづ}むん^んと
 するの^のを^を破^{やぶ}りし^しは^は獨^{ひとり}項^{けい}羽^ふの^の叔^{しやく}父^ふ項^{けい}梁^{りやう}と
 う^うせし^しと^と無^むき^きよ^よひ^ひ一^{ひと}足^{あし}を^をも^もや^やく^く秦^{しん}に
 入^いる^ると^とそ^そを^をり^りふ^ふされ^れは^は夜^や趙^{てう}の^の加^か勢^{せう}
 也^{なり}秦^{しん}又^{また}向^{むか}んと^と高^{かう}祖^そ項^{けい}羽^ふの^のい^いつ^つま^まと^とや^やし^し
 議^ぎせ^せられ^れち^ち先^{せん}武^ぶ者^{しや}と^とも^もの^のい^いふ^ふや^やう^うの^の
 項^{けい}羽^ふの^の子^こ襄^{じやう}と^と男^{なん}と^とて^て襄^{じやう}城^{じやう}と^と落^{らく}せ^せし^し時^{とき}
 人^{ひと}種^{しゆ}を^を破^{やぶ}り^り切^きつ^つし^しの^のい^いふ^ふと^と兵^{へい}存^{ぞん}渠^{けい}の^の通^{つう}る^る如^{ごと}

微^み塵^{じん}よ^よあ^あら^らは^はし^しつ^つふ^ふあ^あれ^れ一^{ひと}拮^{けつ}秦^{しん}を^を
 向^{むか}んと^とは^は情^{じやう}あ^あふ^ふ大^{だい}羽^ふと^と志^しく^くは^は如^{ごと}
 年^{ねん}次^じ日^{じつ}項^{けい}羽^ふの^の政^{せい}よ^よ若^{じやく}し^して^て事^{こと}を^を秦^{しん}乃^{なり}
 民^{たみ}あ^あれ^れの^の情^{じやう}あ^ある^る大^{だい}將^{しやう}の^のゆ^ゆん^んよ^よは^は一^{ひと}定^{てい}
 於^おち^ちし^して^て一^{ひと}沛^{はい}公^{こう}
 高^{かう}祖^その^の事^{こと}あ^あれ^れ寛^{かん}大^{だい}に^に
 長^{ちやう}者^{しや}の^の進^{しん}を^を許^こす^すに^に會^{かい}議^ぎ一^{ひと}周^{しゆう}
 一^{ひと}高^{かう}祖^そ又^{また}陳^{ちん}勝^{しやう}項^{けい}梁^{りやう}を^を討^{たう}り^りら^らせ^せれ^れ乃^{なり}
 兵^{へい}法^{ぽう}を^をて^て秦^{しん}を^を破^{やぶ}り^りた^たり^り宋^{そう}義^ぎと^と上^{じやう}將^{しやう}軍^{くん}

とく項の范増とて趙乃加勢とて
向ひて居る

三年宋義の趙乃加勢とて向ひて居る
安陽の陣より四十六日の間逗留し
卒を志すや相もれを進まんを志せり
け李項相異見といひこれと志某よまをせ
居るにへとて関を入るに相も其子宋襄
と齊よ居るとも首途乃酒宴とてに

其夜しをを氣とて志しとて志るを雨
降と士卒飢凍きふりのをこれ項の
つやう今年凶年ゆと士卒乃兵糧
半を菽と食せむに勢とてめて趙の
兵糧をひかるとあをせと秦とてんと及
おのをせしと酒宴遊奥の何ゆとやと
十月甲子宋義の陣屋へ踏ゆと一刀に
切殺し宋義齊を謀反乃受しお坐角く

懷王此帥承つて謀し多うやとそめんと
上將軍に押す河と諸子と拂て河を
浚し船と沈め谷と破り只三日の兵糧
ありて士卒は必死の覚悟させ秦は
軍小舟と掛り一日の間のみよとそめ
九つを四崩し終る王離と生捕り諸方
乃加勢十餘頭鉅鹿のめらりに陣立し
項ねる軍はやうとんも舌とぬらう

とのきしこれ戦しと項ねる對面乃
時より憐れしく前よ出顔うらあきて
項ねる面とんふよめとそめはけり
是ら孝してしを諸侯の軍項ねる
下知れ共かむふまむ

共よ巴吏と孝起つて一旦に人と威服
さる事の人れけり得る事とせハ
社人とも是けりけり又そ人乃

器量の大小によりて業此大小乃
遠しあり近しく織田殿の桶狭の
戦太閤此駿ヶ嶽乃戦實と人と
威版さる武略としひ河原しゆま
神祖乃て下となむとまもあやうい
又別後ぶつごの此事あり今度増狗ウ
鉦鹿乃戦高村の請ぬれ乃知よ
何れを此一戦めく天下と威版

せりるはさるある一はまはるの
秦よ入事よはぬまよひ又別後此
此事このことの字

去後高祖ハ威陽にておまのひ二月昌邑
小高彭越弛加る彭越ハ昌邑乃生れある
巨野澤中にて盗賊とて居きとと
若者乃歩寄て頼と頼れハしつハ明日乃
日出いのでにふれ衆れハ刻限とてさるめらハ

首と削んと約束と定め翌日よびんて
後より者一人の首切て煙よめりて下知と
出されし人よちよつめきと面とあらふ
よめいなりけりて字をうて延て勢付と今度
らやの解騎にけりて衆りも数高辻を
よ字を陽よかこまひよ里の監門都食
其推衆よ高辻床子に腰掛て足あらひせ
あう對面よふ鄰食其のよと只一禮

義兵と起ると無道よ秦と誅伐あらんと
思ひぬると是よ一の言よ老人とんあふき
屋うやあるといひたれは祖いと紀あきと
上所よ引と謀と同めひやと彼り智略
よ引と陳留よと陳よも其の鄰高と
よ勢回ふめと弛衆る

か、新を我あるにゆるよひよ生民の
主あらん人れ心元よと一(き)

洞一き四月瀬川と落一平陰河津と越て

六月南陽よ赤入七月宛の城と落一西戎

と一とそうとせをまふ沔陣乃と一と

不と一といもく糧藉と禁せられ人な

安堵のかりひとねしきれと病と一と

高あむくの菓木をなう祭けき

項羽のむふ不き秋乃嵐れ不葉と

一とらふよふとあうはき能の陣乃

向ふを根ハ表るの崩出る草木城

や一あふうや一を氏乃とあらん帝れ

陣ハ實をかくとあらんれ

其頃章邯ハ鉅鹿乃城と攻損一棘原を

項羽と對陣志をふり又一と引一足所

な乃も二世乃氣色よからはるよ一関し

の長史司馬飲と居りて中一信有る一に

之日り間司馬門よ為直と趙高よ一と

對面志叶されハ目馬飲忍れといは紀
取てう一章耶に以ふやうハ今勝軍一と
功と立りゆりとき心趙より稱さると更ゆん
又負軍せ及死眾ハ免さゆま一と乞く
涉思慮ルといひり折一と陳餘之志亦
降参とすめけ孝章耶とく猶餘とふ
内又教こよるを居ゆれ目馬飲董毅
りらたよ降人よ出されハ増ゆさハ秦ハ

業内せよとそぬ目馬飲ハ先陣とせ函谷関
こてうとせきり八月高祖武關ハ攻入のよ
初趙高二世とありしと関東ハ盜賊たう
何条のりとうはか一ゆいささゆとあけに
しひあ一疾ゆりハ高祖脱ハ武關ハ入
りやと関えうハ二世人よたゆらき趙
ととらむ趙も忍まこくせんはる身乃
難倣とあこ一とさゆハ其皆咸陽の会

周樂と信令一凶賊の亦入多りと板屋
戸皆周樂の勢と引具くと望夷宮乃
御門は押つけ痛直れ武士と召搦て今
爰に凶賊と云ふる端ゆつて成れ逃
糸弄埃ありとと首と削矢危く御殿に
切入る御帳の帷は一矢すくと棄らせ
きり二世も後死怒く人々あると平れ
まれと周章といひく防人をも忘せし逃

教け忠信者一人側と離き後より二世
か糸糸とハ何そく穿くハハとぬとあま
まれをハハありせ反とくに誅せられん
是れと今もと動てゆつてとそとらう
茲臣其初何とゆる人歎とゆと君れ
心とらう御と君の権威とぬと其
権威とみと内外乃緒臣とおるやして
其口誠箱もせとわいとそとらう

果ハかゝる時ときもく側そばと離はなきしとあふ
初はつの忠愛あひとあはる近臣きんしんさらしあふ
わづらの教しゆふしあふんとあはれあふら
中ちゆうの事ことれあふらぬ世よ中ちゆうと成なまは
しそあふあふけき

閑樂えんつと進まんで足あし下くだれ無道ぶだうあるらあふ
天下てんか管くださむき中ちゆうの荒あ培くわまじとのあふ
あれあふと連つくあふとあふらんとあふ一命いっめいと

得える歩ふもあふしひくれとき果くわ通つう相さうのし下くだ知ち
あふてあふれあふは足あし下くだと謀まはいうよあふ
ときあふひあふとあふ兵へい下くだ知ちく諾だくあふ
あふ二世にせを自害じがいしとあふあふらあふ
凡おほ臣しんれ君きみと弑ころさるあふあふあふら
あふといときあふ多おほくあふ初はつ已おほり身みと衆しゆうん
とあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

よのま君と教ふれハ夫已と教ふ
以テ教ふありと君と教ふて身の難と
造る是古今君と執る者のあり由記
す祭共初納言の賞主此不納ハ初と
初ハ見し中社け時又下此
為よ無道法疎と中社基とそん
多れしよハ明君ハ眼よ辱らひる
中社者と見給つかる者社修よ家と

弒せん者ありめとあむのそんといふ
小々之亦ありはくそんあむらんつらめ
かくそ高しやう治世と下に君あり祭
のひきんしう帝と反稱一のひこれ今
六回復記りて奮領と切丸多きハ秦と心
不れかく主也祿とへきりて給る魚と
倉議と始皇乃背れ子子嬰と立る王と
せんとうく九月宗廟よ此系りあきて固れ



御寶傳四壘と

始皇藍田乃玉と傳て李斯に篆字
頒刻せし天子の御傳印と云れと傳

四壘相傳あふるしと治定志もれや子嬰

虚病と構もり出りしうハ趙言み川うら

迎よ来りしと判教く四申と後一之族と

止しけ字と晴雪の陣をり経ひととて人

中をふりしと峯關よ兵むをて漢の軍と

始せり皆これと云ふ張良の智略よめられ

一又也と云ふ及もれ角の進もり

